

福知山市商工会 企業業況調査

令和3年1月調査結果(令和2年10月~12月分 調査対象 76件)(令和3年2月7日公表)

■景況感

	今回調査数	現状		先行3ヶ月		先行1年		
		今回	前回	今回	前回	今回	前回	
全体	76	27.6	28.3	25.0	28.9	26.3	31.6	
地域別	三和	16	26.6	23.6	26.6	25.0	28.1	27.8
	夜久野	26	26.0	26.8	22.1	26.8	21.2	27.7
	大江	34	29.4	31.8	26.5	32.4	29.4	36.5
業種別	製造業	23	31.8	31.0	29.5	32.0	29.5	39.0
	建設業	19	35.5	37.5	30.3	34.4	21.1	31.3
	卸小売業	9	16.7	22.2	22.2	22.2	30.6	25.0
	サービス業	25	21.0	19.0	17.0	23.0	26.0	27.0

景況感DIの算出方法

回答構成比(%)に、以下の点数を乗じてDIを算出
 良い+1.0、やや良い+0.75、どちらともいえない+0.5、やや悪い+0.25、悪い+0.0
 (すべてが「どちらともいえない」と回答した場合、DIは「50.0」)

現状は、景況感DIは27.6と前回調査より0.7ポイントのマイナスとなった。地域別では、三和が3ポイントのプラス、夜久野が0.8ポイント、大江が2.4ポイントのマイナスになっている。業種別では製造業は0.8ポイント、サービス業が2.0ポイントのプラス、建設業は2ポイント、卸小売業で5.5ポイントのマイナスとなっている。地域別では前回横ばいの状況であるが、業種別では、卸小売業の低調さが伺える。サービス業の2.0ポイントアップについては、国のGoTo ert等の影響もあるものと思われるが、前年同期と比較しても大幅な減退感はない状況である。

先行調査では、先行3ヶ月が3.9ポイントのマイナス、先行1年が5.3ポイントのマイナスと新型コロナウイルスの長期化への懸念が表れている。業種別に見ると、先行3ヶ月では卸小売業を除いた3業種で2.5~6.0ポイントのマイナス、先行1年では卸小売業が5.6ポイントと期待感はあるものの、製造業と建設業においてはそれぞれ9.5ポイント、10.2ポイントのマイナスと大幅減を予測しており、予断を許さない状況であると思われる。

■経営動向

○製造業・建設業

	今期		前年同期比		前期比	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回
引合			-42.9	-26.5	-21.4	-26.5
売上			-50.0	-36.7	-28.6	-32.7
採算	-7.1	-12.2	-38.1	-32.7	-28.6	-34.7
資金繰り	-11.9	-20.4				
業況	-31.0	-40.8				

経営動向DIの算出方法

「良い」とみる割合(%)から、「悪い」とみる割合(%)を引いてDIを算出

(「良い」と「悪い」の割合が同じ場合、DIは「0」)

(製造業・建設業)グループと、(卸小売業・サービス業)グループに分類して集計をしている。

○卸小売業・サービス業

	今期		前年同期比		前期比	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回
売上			-67.6	-76.5	-66.7	-41.2
客数			-79.4	-67.6	-72.7	-44.1
客単価			-52.9	-52.9	-45.5	-35.3
採算	-41.2	-44.1				
資金繰り	-52.9	-50.0				
業況	-61.8	-67.6				

★今期の経営動向

製造業・建設業においては、前回に引続きすべてにおいて改善傾向にある。特に資金繰り及び業況においてはそれぞれ8.5ポイント、9.8ポイントのプラスと改善幅が大きくなっている。

卸小売業・サービス業においては、採算及び業況について、それぞれ2.9ポイント、5.8ポイント改善しているが、資金繰りにおける改善は見られず2.9ポイントのマイナスとなり根本的な経営改善には時間を要し、先行きの不安が増しているものと思われる。

★前年同期比、前期比

製造業・建設業においては、前年同期比では、引合が16.4ポイントのマイナス、売上が13.3ポイントのマイナス、採算面では5.4ポイントのマイナスと厳しい現状である。前期比においては、引合、売上、採算のすべてで改善が見られる。

卸小売業・サービス業については、前年同期比では、売上が8.9ポイントのプラスと多少の改善は見受けられるが、客

数が11.8ポイントのマイナスとなっている。前期比については、一旦改善傾向が見られた前回から、マイナス傾向が鮮明となり、売上で25.5ポイント、客数で28.6ポイント、客単価で10.2ポイントと大幅なマイナスとなり、今後のコロナウイルス感染症拡大に動向に大きく影響されるものと思われる。

■ 今期直面している経営上の問題点（業種別上位5項目 項目の後の()は前回順位(同順位あり)、業種の後の数字は選択された数)

	製造業(51)		建設業(47)		卸小売業(15)		サービス業(60)	
1位	従業員の確保難(1)	17.6%	金利負担の増加(2)	19.1%	事業資金の借入難(1)	26.7%	事業資金の借入難(1)	21.7%
2位	事業資金の借入難(2)	15.7%	事業資金の借入難(1)	12.8%	設備の老朽化(4)	26.7%	従業員の確保難(2)	16.7%
3位	金利負担の増加(3)	11.8%	設備の過剰(-)	12.8%	競争の激化(2)	13.3%	人件費の増加(4)	13.3%
4位	仕入価格の上昇(4)	7.8%	消費者ニーズの変化(5)	10.6%	人件費の増加(5)	13.3%	設備の老朽化(3)	10.0%
5位	設備の老朽化(-)	7.8%	人件費の増加(-)	8.5%	仕入価格上昇(-)	6.7%	設備過剰(5)/取引悪化(-)	8.3%

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を象徴するかのように、事業資金関係での問題点が上位を占める状況が第1四半期(昨年4月～7月)以降続いている。今期においても、多少の上下の変動はあるものの同様の傾向が続いている。業種別に見ると、製造業では、トップに従業員の確保難がくるなどほぼ前回同様の結果であり、建設業では、トップに金利負担増があがり、設備の過剰が3位に入ってきた。卸小売業では、トップの事業資金の借入難が前回調査より10ポイントプラスになり厳しい状況にある。2位の設備の老朽化が前回調査時より14.2ポイントプラスに、5位に仕入価格の上昇が入ってきた。サービス業では、トップの事業資金の借入難をはじめ大きな変動はないが、5位に取引悪化が入り、新型コロナウイルス影響の厳しさを表しており、今後も予断を許さない状況にあるものと思われる。

この調査は、福知山市商工会会員事業所を対象として、景気判断や経営動向等を明らかにし、売上向上を目指した事業計画の策定、販路開拓や商品開発、事業承継、経営改善等経営力向上を推進する基礎資料として活用することを目的に実施しています。

次回は令和3年1月～3月の状況について、令和3年4月に調査する予定です。商工会の支援員が調査にお伺いしますので、調査対象の事業所様には引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。